

The Word Today

No.1023 私たちの父 その2

ポール・シュレーダー牧師

先週のこの番組では、主の祈りについてお話ししました。「マタイの福音書の主の祈りには、締めくくりの言葉があるが、ルカの福音書の主の祈りにはそれがない。どちらを用いるべきか」、などと、視聴者の皆さんがほかのクリスチャンと論じて、無駄な時間を過ごさないように願います。実のところ、主の祈りの締めくくりの言葉は、おそらくイエスが教えられたときにはなかったと思われます。「国と力と栄は、とこしえにあなたのもものだからです。アーメン」というこの言葉は、主への賛美として、主の祈りの終わりに、後の時代に付け加えられたと考えられています。これは、おそらく祈りを締めくくる頌栄だと思われます。ローマ・カトリック教会は、通常この終わりの言葉を用いませんが、ほとんどのプロテスタント教会は用います。あなたが信仰の異なる別の教派の教会で礼拝に出席するとき、終わりの言葉があってもなくても戸惑わないでください。聖書には両方がありますから、どちらも聖書的です。

では、イエスが祈りについて大切なことを教えておられる、ルカの福音書 11章の主のいのりについて、学びを続けたいと思います。まず、「御名があがめられますように」から見ましょう。神の御名は聖い御名です。そのことを考えるとき、ここアメリカでは、文学やニュースや人々の会話の中で、十代の若い世代でも、**Oh Jesus, Oh God** などと、主の御名が驚きやののしりを表す言葉として、ぞんざいに使われているのを耳にすることがあります。皆さん。気をつけてください。それは罪です。神はご自分の名前を非常に大切にされており、御名がみだりに用いられることを嫌われます。神が与えられた十戒の中の一つの戒めは、御名に関するもので、御名を適切に用いるようにと命じられています。賛美や感謝をささげるために用いるべきであり、不注意に用いられてはなりません。ましてやののしりの言葉として用いるなどはもつてのほかです。覚えておいてください。神の御名は聖い御名であって、私たちが神を呼ぶときや祈りの中で神に近づくときに、適切に口にされるべきです。

神のもとへ行き祈るときに、私たちが理解しておくべき、とても大切なことの一つを、イエスがルカの福音書 11章で述べておられます。私たち人間の中には悪があり、罪があります。イエス・キリストを救い主として信じていても悪があります。イエスは言われます。「あなたがたは悪い者であっても、自分の子どもを守り、子どもに良い物を与えることを知っています」と。イエスはここでちょっとした比較をしておられます。あなたがたの中で、「子どもがパンを下

さいと言うときに、石を与える父親がいるのでしょうか。あるいは、子どもが魚を下さいと言うときに、魚の代わりに、子どもに害を加える蛇を与えるような父親がいるのでしょうか。卵を下さいと言うのに、だれが、子どもを噛んで害を加えかねないサソリを与えるでしょう。」答えは、はっきりしています。正常な精神の父親は、愛する子どもにそのようなことをしないのは明らかです。地上の父親でも、子どもが欲しいと言う物が、子どもの幸いのためであれば、それを与えます。

地上の父親でも、何か食べ物を求める子どもに良い物を与えようとする善意と知識を持っているのですから、罪や悪のない、まったくの義である天の父は、愛する子どもに、地上の父親よりもはるかに良いものを下さることは明らかです。私たちが神の御名をあがめて、神のもとに行き、日々の糧や服やその他生活に必要な物を求めるとき、必要な物を必要な時に、神は私たちに必ず与えてくださると、イエスは確信を与えておられます。

すべての祈りは何らかの方法で答えられる、一言で言うなら、そういうことです。真実な祈りを、神は聞かれ、答えられます。たとえば、聖パウロが神に3回癒しを求めて祈った時のように、神の答は、「否」かもしれません。神は、祈り願ったものを与えられないことがあります。すべてをご存じの神は、それがあなたを害することになると知っておられるからです。それで、代わりに何か違うものを与えられるかもしれません。違うときに、違う方法で下さるかもしれません。あるいは、「待ちなさい。最善の時に、最善の方法で、その祈りに答える」と言われるかもしれません。決して恐れてはなりません。神は祈りを聞かれ、祈りに答えられます。それを理解し、意識しておくことは、とても大事です。神は愛深い神であられ、ほかの何よりも神を第一にし、どんな時にも神のもとに私たちが行くことを願っておられます。神は眠ることはありません。神はいつも聞いておられます。いつも私たちが助ける備えができています。子どもが父親に語るように、私たちが神に語りかけることができるのは、なんとすばらしいことでしょうか。

祈りについてもっとも大切なことの一つは、神は私たちが愛しておられると理解することだと思います。神は、小さなことでも、どんなに小さな困難でも、神のもとに持って行くことを願っておられます。神は、私たちが、「天のお父さま。これが私の気にかかっています。このことを私は心配しています」と申し上げることを願っておられます。

また、主の祈りを祈るときに、もっとも大事なことは、赦しの部分の言葉です。主の祈りの中で、私たちはこう祈ります。「私たちの罪をお赦してください。私たちも私たちに負いめのある者をみな赦します。」私たちがお互いに赦しあうように、私たちが赦してくださいと、神に祈っています。

ある時、一人の人が私に、「兄弟を赦すことができない」と言ってきました。彼の兄弟は、多くの点で彼を傷つけ、命さえも奪おうとしたと言うのです。それで、「私は決して私の兄弟を赦さない」と言ったのです。これは、大変なことです。兄弟であれ、隣人であれ、あるいは仕事仲間であれ、人を赦さないと言うことは、「私は神に赦してもらおうとは思わない」と言うに等しいのです。神は、「あなたがほかの人を赦すように、あなたを赦す」と言われるからです。これは、私たちがほかの人を赦すことによって、神からの赦しを勝ち取る、という意味ではありません。その逆です。神がまず私たちを赦されました。神が私たちの罪を取り除かれたので、私たちはすべての罪の責めから解放されました。私たちは赦された者だから、私たちがほかの人を赦すように、と神は言われます。それは愛についても同じです。神がまず私たちを愛したので、私たちもお互いに愛し合うのです。

イエスは、私たちが互いに愛し合うことによって、私たちが神の子どもであることを、ほかの人々が知ると、言われました。世の人々は、復讐することを願います。赦そうとはしません。相手を助けるのではなく、仕返しをすることを願います。「目には目を」の論理です。それとは、まったく異なることを、イエスは言われました。怒りを募らせてはなりません。怒りは憤りになり、それが復讐心になります。そうではなく、神はあなたを愛しており、あなたを赦し、すべての罪を取り除いてくださったことを思い出さなければなりません。

あなたを本当に傷つけた人を赦すのは、難しいことはわかります。私も、それほど多くの人ではありませんが、赦すのが本当に難しい人が何人かいました。私はその時どうしたと思いますか？赦すために、どのような助けを得たと思いますか？私は、次のように祈りました。「イエス様。あなたが見るように、彼らを見ることができるようにしてください。あなたは彼らのためにも死なれたことを知っています。あなたは彼らを赦されたことを知っています。彼らをあなたの目で見ることができるようになってください。彼らを赦すことを教えてください。」実のところ、神は私たちの敵を愛しなさいと命じておられます。そのことを、覚えていると思います。それほどに私たちは愛することを求められています。神は私たちを赦され、私たちの内に住まわれる聖霊の力によって、私たちがひどく傷つけた人たちでさえも赦すことができるようにされました。イエスが私たちに与えられた赦しを、私たちがほかの人に与えることができます。それが、主の祈りの、「私たちの罪をお赦しください。私たちも私たちに負いめのある者をみな赦します」の意味です。

主の祈りについて、すばらしい学びがなされました。ルカの福音書 11 章とマタイの福音書の主の祈りが教えられている個所を読んでください。一方には締めくくりの賛美がありますが、片方にはありません。どちらでも良いです。け

れども、イエスという名前を口にするのは、イエスに祈っているときや、イエスのことをあかししているときや、イエスを救い主として話しているときだけにしてください。決してのろいの言葉として使ったり、不用意にイエスの御名を用いたりしないでください。御名を適切に口にし、主を敬い、賛美してください。神はあなたを愛しておられます。神は待っておられます。神のもとへ行き、祈ってください。神はあなたの祈りを聞かれ、答えてくださいます。祈りによって、父なる神に語りかけることができるとは、私たち神の子どもは何という特権を与えられていることでしょうか。